

刈谷市地域農業再生協議会（愛知県刈谷市）

組織の概要

- 刈谷市、JAあいち中央等11機関が構成員となり、H23年度に設立。うち国産小麦産地生産性向上事業の受益農業従事者数は10名。
- 湿田が多い地域での土地改良事業、団地化など麦等の生産性向上に取組。
- 乾田化しやすい地域を中心に、麦・大豆作を中心として集団転作を実施。

生産概要

- 【作付面積】水稲：147ha、小麦：130ha、大豆：91ha（水田368ha）（R3）
- 2年3作を基幹とするブロックローテーション（水稲→小麦→大豆）
- 大規模化ほ場での水田作が行われている市南部で、3営農組合の合併で設立された法人が小麦生産。引受農地の増加に伴い、麦作も拡大してきた。（H24：130ha → R3：158ha）



<大規模ほ場での麦生産>

取組のポイント

<需要に応じた生産を徹底>

- 地元の学校給食を含む需要が旺盛な日本麺用品種「きぬあかり」及び硬質系品種「ゆめあかり」を生産。

<品種別の団地化、ドローン等の導入による生産拡大>

- 排水対策として効果のあるカットドレーンによる無材穿孔暗渠施工の取組拡大。実施に当たってはほ場ごとの状態を踏まえて施工方法を調整。
- 無人ヘリと併用し、ドローンを活用した農薬散布面積の拡大による防除の効率化。
- 本事業で導入した技術情報について、営農部会等の機会に麦作が拡大しつつある市北中部の担い手と共有。
- 事業で導入したロータリー、播種機等を活用することで、作付面積の拡大に対応。



<導入機械による播種作業>

取組成果

<小麦生産の高位安定化を実現>

- 請負農地の拡大等に伴い、小麦の作付面積が25.3%増加。（作付面積：130ha（R3） → 163ha（R4） R7目標：152ha）
- 小麦作付けの拡大に当たって、団地化を前提としていることで団地化面積が向上（24%）、団地化率も高い水準を維持。（団地化面積：124ha（R3） → 154ha（R4） R7目標：148ha）
（団地化率：95.5%（R3） → 94.5%（R4） R7目標：97.7%）

<高水準の単収による安定した小麦生産>

- 地域全体の高い単収を取組主体がけん引。（単収（きぬあかり）：634kg/10a（R3） → 539kg/10a（R4））
（単収（ゆめあかり）：491kg/10a（R3） → 580kg/10a（R4））
（地域単収（小麦）：517kg/10a（R3） → 500kg/10a（R4））

